



片柳中学校だより

# 片柳

第11号 令和6年2月1日発行  
さいたま市立片柳中学校  
さいたま市見沼区大字御蔵551  
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

## 子どもたちに望むこと

校長 加藤 明良

能登半島地震から1か月。未だにライフラインの復旧が進んでいない状況に今回の災害の恐ろしさをまぎまぎと感じるとともに、これからの復興に向けた支援や私たちに何かできることを考えずにはいられません。本校にも能登から一時的に避難してきた生徒、たまたま実家に帰省中に地震に遭遇した生徒もいます。けっして他人事ではなく、世の中で起きていることに対して、自分事として考えていくことが大切だと思います。その一例として、先月は生徒会本部役員が中心になって募金活動を行ってくれました。朝の登校時に昇降口で募金を3日間限定で行いましたが、何と約10万円ものお金が集まりました。生徒や保護者のみなさんの何かしたいという気持ちが入ったお金だと思います。みなさんの温かい心にあらためて感謝いたします。そして、どんな形で片柳中生徒の気持ちを現地に届けるたらよいか検討しています。方向性が決まりましたらまた報告させていただきます。

さて、先日の新入生保護者説明会において、来年度入学予定の保護者の方に次のようなアンケートをとりました。

質問) 保護者として、これからの時代を生きていく子どもたちに望むことは何ですか。(複数回答可)  
選択肢として12項目を提示しましたが、そのうち

一番多かった回答は「**自分の力で道をひらけること**」

二番目は僅差で「**失敗しても立ち直れて成長できること**」

三番目は「**本人のやりたいことを実現すること**」 この3つが圧倒的に多い回答でした。

自分の力で道をひらいていくためには、自主・自立の態度が必要です。自分で主体的に考え自分で判断し的確に行動していく力です。小学生までは大人から守られる立場ですが、中学生からは、守られるだけではなく、自らができる範囲で社会に対して何かをなす、できることを考える立場だと思います。震災で困っている人に何か行動を起こすことも大切な自立への第一歩だと考えます。二番目、失敗しても立ち直れるということは、心理学用語ではレジリエンスを意味します。心理学ではストレスに直面したときに適切に対応する能力、困難から立ち上がることを意味します。また、レジリエンスは様々な経験や学ぶことで身に付けることができるとも言われています。学校は失敗してもまたチャレンジできる場でありたいと思っています。三番目、本人のやりたいことを実現することは言葉を変えれば自己実現です。自分の挑戦したいこと、やってみたいこと、目標などを達成させることです。3年生は今、まさに中学校3年間の集大成として進路選択という自己実現に挑戦しているわけです。新入生保護者の皆様は、変化の激しいこれからの時代を生きていくために必要な力をしっかりととらえていच्छることに感心するとともに、安心しました。実は私たち大人は社会で日々起きていることに対して仕事上や生活上何らかのかかわりを持っています。つまり、社会と無縁では生きていくことが難しいのです。中学生として社会に目を向け、世の中で起きていることに関心を持つことは、大人への第一歩であると考えます。

学校として、授業をはじめ、様々な教育活動を通して、自主・自立、レジリエンス、自己実現をめざす生徒たちを育成すべく、今年度のまとめと、次年度へ向けての準備を進めてまいります。